

水が止まった！

尾畑留美子

蛇口をひねれば水は出るもの。そう思っただけはいいませんか。口を開けば空気が吸い込めるように、水もいつだって出てくるもの。私もそう思っていた。あの一月の凍てつく寒さの朝までは、その日、目覚めたばかりの私はいつものように蛇口をひねった。すると、あら水が出ない。蛇口の先っぽに顔を近づけて下から覗いてみた。が、やはり零の一滴も出る気配がない。

「ねえねえ」

ダンナを呼んでみる。いろんなモノを壊すくせがある私は、「頼むから、君はむやみにモノに触らないで！」ときつく言い渡されている。修理上手なダンナがあれこれ蛇口を触ってみた。しかし、出ないものは出ない。診断結果は、

「断水だね」

エーッ！断水ってのは水が止まることを言うわけで、朝のコーヒーマグ一杯が飲めないってことはお通じに影響があり、しかもその舞台となるお手洗いも使えないことを意味している。さらにその日は会社にお客様が来る予定なのに、このままじゃ顔も洗えないってこと？

そういうことになってしまったわけである。ここ佐渡島の半数の家が断水したというニュースは当口午後には全国に駆け巡ったので、ご記憶の方もいるかもしれない。豊かな水を湛えた土地なのに、水が得られないとはこれいかに。断水はどこかの水道管が破裂して起こったらしく、各家、自宅の水道メーターをチェックすべしと連絡網。破裂しているなら、メーターは

クルクル回っているという。だが皆さん、そもそも水道メーターがどこにあるかご存知か？

私は恥ずかしながら知らなかった。猛吹雪の中、家を3周したが見つけれなかった。そりゃそうだ。ネット検索したら水道メーターってものは地中にあるのだそう。てことは、積雪の下である。今度はスコップ片手に雪かきに没頭する。やった！20分後掘り当てた金脈、もとい水脈のメーターは微動だにしていなかった。良かった……が、ホッとしたのもつかの間、今度は手洗いが急務だ。玄関先の雪山を鍋に盛ってコンロで沸かし、だいたい水になったらトイレのタンクに注ぎ込む。よし、使える！！

すっきりしたら今度はお腹が空いてきた。棚の奥からレトルトパックを引っ張り出し、やはり雪を融かして温める。島に降る雪はきれいで、こんな時は使い勝手がいい。洗顔や風呂を諦めれば、数日なら耐えられそうな気がしてきた。鼻息荒く台所で仁王立ちする私にダンナが呟く。

「君、意外とたくましいんだね」

結局、我が家の断水は2日間で回復した。この期間が長いかわいさはさておこう。この断水事件は、蛇口をひねれば水は出るものと簡単に考える我々に、警鐘が鳴らされた貴重な機会であったことには間違いない。それから大量の湯を張った風呂に浸かるたび、しみじみと水のありがたさをかみしめる私である。

(おぼたるみこ・尾畑酒造五代日蔵元)

